

会 議 録

会議の名称	第18期東村山市社会教育委員会議（第17回）				
開催日時	平成22年12月14日（火）午後7時00分～9時00分				
開催場所	東村山市役所いきいきプラザ4階 教育委員会室				
出席者 及び欠席者	<p>出席者：</p> <p>（委員）神谷・桑原・小林・小山・土田・當間・森・吉井・吉満 敬称略</p> <p>（市事務局）社会教育課長 神山・生涯学習係主任・野沢、生涯学習係主事 野崎</p> <p>欠席者：（委員）島崎</p>				
傍聴の可否	傍聴可能	傍聴不可の場合はその理由	/	傍聴者数	1名
会議次第	<p>1．あいさつ</p> <p>2．報告事項</p> <p>（1）平成22年度東京都市町村社会教育連絡協議会交流大会について</p> <p>（2）第41回関東甲信越静社会教育研究大会（東京大会）について</p> <p>3．協議事項</p> <p>（1）今期研究テーマ提言書の概要について</p> <p>4．その他</p> <p>（1）第19回会議日程について</p> <p>（2）平成23年「成人の日のつどい」について</p> <p>5．閉会</p>				
問い合わせ先	<p>教育部社会教育課生涯学習係</p> <p>担当者名 神山・野沢・野崎</p> <p>電話番号 042-393-5111（内線3513）</p> <p>ファックス番号 042-397-5431</p>				
会 議 経 過					
<p>1．あいさつ</p> <p>議長</p> <p>だんだん寒い気候になってきたので、皆さまにはお身体に気をつけていただき、今期研究テーマ提言書の作成に取り組んでいきたい。今回も皆さんの積極的な発言をお願いしたい。</p> <p>課長</p> <p>今回が、今年最後の会議となる。提言に向けて皆さまから様々な知恵をいただき感謝している。本日も皆さまから多くのご意見をいただければ幸いである。</p>					

## 2. 報告事項

### (1) 平成22年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会について 議長

会長のあいさつ、来賓の祝辞に続き、東京都市町村社会教育委員連絡協議会表彰の表彰式と各ブロック研修会実施報告が行われた。今回、表彰式では被表彰者が欠席のため、表彰状を受け取る人が誰もいないという自治体があった。予め欠席者が分かった時点で、代理人に出席していただく旨の周知が必要であり、また、欠席者の名札は取り除いておくような配慮も必要ではないかと感じた。

### (2) 第41回関東甲信越静社会教育研究大会（東京大会）について 全体会について

#### A 委員

実行委員長、主催者のあいさつ、来賓の祝辞に続き、記念講演、パネルディスカッションが催された。前半の記念講演では「地域主導の子どもの居場所づくりから、若者支援へ」というテーマでNPOピアサポートネットしづや理事長の相川良子氏による事例発表があった。後半は、「地域教育が切り拓く未来」というテーマで宇都宮大学教授の廣瀬隆人氏をコーディネーターに迎え、3人のパネラーによるパネルディスカッションが行われた。地元こだわった社会教育の原点は、地域のネットワーク作りにあること、社会教育は、日々の暮らしに役立つ教育をすること、まちづくりの共同体を形成するためには学校がリードして地域教育を取り入れることが重要であり、これをサポートするのが社会教育委員の役目であるといった意見が述べられていた。社会教育委員として励みになる内容のディスカッションであった。

#### B 委員

社会教育委員の重要な心得として、市民協働を社会教育委員の役割と捉えること、会議では実現可能な事項について具申することであるという意見が印象的であった。近年、行政が、部署名等において「社会教育」から「生涯学習」に改める傾向があるが、社会教育の越境ならびに拡張という観点から、「社会教育」という名称が復活しつつあるという。社会教育には生涯学習のほか青少年健全育成や地域教育など幅広い概念を含んでいるためである。しかし、全国で青少年健全育成施設が約20%減少しているというデータがあり、今後、もっと青少年健全育成に力を入れるべきであるという提案がなされていた。社会教育には指導要領がなく自由裁量となっているが、目標、実施、評価への展開を見据えながら社会教育に取り組むべきであり、それぞれの地域に見合った社会教育を形成すべきであると結論付けられていた。

### 第2分科会について

#### C 委員

第2分科会は、「地域が支える子ども・学校」というテーマで、杉並第一小学校で展開されている地域教育の事例報告があった。地域の人が本校ジュニアバンドの指導を行っていること、午前8時25分から8時35分までの10分間、「朝先生」と呼ばれる地域のボランティアが活動し、児童にしつけ等を行っていること、低学年が対象の「生活科」、中学年以上が対象の「総合学習」に地域の人がかかわり、系統的なカリキュラムが組まれていることなどの報告があった。本校は、平成20年4月からコミュニティスクールに

指定されていて、隣接する病院や商店会の関係者が運営委員会の顧問になり、まちを挙げて学校をサポートしているのが特徴である。学校の中に日常的に地域の力が入りこんで継続的に関わりあっているのが伺えた。

### 第3分科会について

#### D委員

地域課題に向き合う「学び」というテーマで、立川市で展開されている子育て、若者の自立支援、高齢者の福祉等の地域課題への取り組み事例の報告があった。具体的に、高齢者を対象にしたデイ・サービス及び雇用促進事業や若者を対象にした「育て上げネット」(大人になりきれない若者を育てる会)の活動について紹介されていた。

#### E委員

他の自治体で展開されている社会教育の事例を学ぶことで、今後に向けて大変参考になったが、東村山市でも、規模は杉並区や立川市に及ばないにしても、各学校で土曜講座などの地域教育が早くから展開されているので、本市の活動状況を市外にも発信できるような努力が必要ではないか。そのために、まずは地元の多くの人に活動内容について知ってもらうための広報活動を工夫しなければならないと思う。

#### F委員

個々の組織がばらばらに動いているのが原因で、活動が広範囲に広がらないのではないかと。組織をコーディネートしていくのが社会教育委員の役目だと思う。

## 3. 協議事項

### (1) 今期研究テーマ提言書の概要について

#### 議長

前回会議における皆さんからの指摘事項を踏まえ、提言書の案文を修正した。皆さんには事前にメール等で送付し、内容を確認していただいたところである。前回の指摘を受け、目次の構成を一部改め、用語解説や巻末資料を一部追加した。本日も皆さんより引き続きご意見をいただきたい。

#### G委員

「若い世代の育成について」の項目で、地域行事の企画段階から子どもたちの参加を促す提案の例として『輝け！東村山っ子育成計画』の一部が挙げられているが、用語解説には、本計画が策定された経緯を載せるほうがよい。

#### H委員

所々文面の主語があいまいな箇所が見受けられる。これだとアンケートに協力してくれた団体が、意味を取り違えて不快感を持ってしまうおそれがある。主語を明確にすべきである。

#### 議長

巻末資料として掲載する「アンケート回答団体一覧」には無作為抽出より対象団体を選んだことを明記した上で個々の協力団体名を掲載しても差し支えないか。

#### A 委員

協力団体にとって、他にどんな団体が協力したのか、これを機に知りたいと思っているのではないか。よって具体的な協力団体名を掲載したほうがよいと思う。提言書の中に個人情報が含まれていないので、公開しても差し支えないと思う。

#### B 委員

団体名を明らかにすることで、団体の越境が生じ、情報交換のきっかけになるのではないか。

#### C 委員

「人材集結について」の項目で団体の存在や活動内容のPRについての記述があるが、具体的な広報活動の方法についてもっと言及すべきである。現状では、同一の事業が複数の広報誌に重複して掲載されているのが見受けられ、かえってPR効果が薄れてしまっていると思う。

#### 議長

皆さまからご意見があったように巻末資料の団体名一覧には個々の協力団体名を掲載することにする。また、用語解説についても適宜修正していく。抽象的な表現があった箇所については、読者に誤解が生じないよう明確な表現に改めることにする。

#### 4. その他

##### (1) 第19回会議日程について

- ・第19回会議 平成23年2月18日(金)午後7時～教育委員会室  
全委員の承認により上記日程で開催することが決定

##### (2) 平成23年「成人の日のつどい」について

日時 平成23年1月10日(月・祝)

受付13時～ / 式典13時30分～

会場 明法高校講堂

お時間のある方は出席をお願いしたい。(課長)

#### 5. 閉会